

ホーム名：医療法人健泉会 グループホーム西松庵 2階				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者第一主義で快適な時間と心ある介護を理念としている。理念を施設内に掲示し、常を確認し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域行事に参加している。また、施設行事に参加頂く機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の施設として、家族介護者教室を開き、介護に関する講習会を定期的に催している。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などについて、報告などを行っている。また、サービス向上のための意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	サービス内容についての疑問などについては、市の担当職員に質問し、解決している。また事業者連絡会に出席する事でサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束については、都度職員全体や個々に理解してもらえるように説明又は勉強会等を実施し、個々のご利用者の状態に応じた介護を心がけ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。しかし職員全体への理解はまだ不完全と思われる。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に行われている対応が虐待につながるような事があるなど、職員間の意見交換の中で学習又は実践するようにしている。	

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では、各々の職員が自己にて学んでいる事や、研修会に参加して学ぶ機会を増やしていくように努めている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ丁寧な説明を心がけ十分に納得して頂き、またいつでもお気軽にご不明な点など確認して頂けるように説明している。		
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常日頃からご利用者、ご家族の話や意見に対して傾聴を心がけている。また、外部者に対しては月一度訪問する介護相談員に話が出来る場を設けている。		
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	個別で、または会議の時に聞く機会を作っている。また職員間での話易い環境づくりにも気を配っている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	オーナー自ら個別に職員へ話を聞く機会を持ったり、少しでも意欲をもって職員研修に参加できるような取り組みを行ったり、資格取得者に対してお祝いを行う事で向上心をもって働けるように努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の担当職員を決め、定期の研修を行う事で質の向上を図るよう努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	羽曳野市のグループホームが開催する計画作成者の会議に月1回参加している。また、その会議にて全体の各施設職員交流として年2回の勉強会を催している。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接の際に詳細を確認し、本人やご家族の状況把握に努めている。ご希望があれば体験入所も検討する事でご利用者の現状の共有を心がけている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の信頼関係と同様。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族のその時の状況を確認し、当施設サービスに限定せず本人に合ったサービスを一緒に検討させて頂いている。入所後もご希望や本人の状況、周りの状況により必要に応じて他のサービス利用も含めて検討している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な調理や部屋の掃除、洗濯物干しやたたむ事などを一緒に行う事で関係を築いている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が施設行事等に参加する機会を作り、一緒に楽しむ機会を設けている。気軽に面会に来て頂けるような配慮や本人の状況に応じて面会や外出の機会を増やしてもらったりする事も依頼している。		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が自宅で使用していた家具や生活用品などの持ち込みを可能にし、馴染みの環境が継続されるような支援に努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しく交流が持てるようにレクリエーションの場を設けたり、気が合う、合わないというだけでなく、この人をお手伝いたいというご利用者の気持ちなどを考慮した上でも食事の席等を決定している。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、必要な時はお気軽に相談していただけるように声かけしている。また適宜電話等で現況の確認も行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や散歩時など、1対1で関わる機会にて本人の希望、意向等を聞くようにしている。言葉による確認が出来ない時は表情や動きから把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所面接の際に、簡単に生活歴を確認しているが、入所後は本人や家族に対しても面会時などで少しずつ聞き、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録する事、またそれらを確認したり、申し送りを密にする事を徹底し、総合的に把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期のケアプラン会議の際には、施設内関係者の話し合いが中心であるが、それに先立って、あるいは必要時に本人や家族、主治医の意見を確認するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は日中、夜間を通して記入しており、日々の実施状況を確認しながら介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスや小規模多機能施設の行事に参加する事で本人の気分転換に役立てたり、本人の持つ力を引き出せたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	合唱、陶芸など各種の専門家にボランティアとして来て頂き支援している。介護相談員のの来所もありご意見頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医への受診を希望される場合は出来るだけ意向を尊重している。医師へ現状を報告し、体調管理に努めている。		

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	ご利用者の体調の変化などを常に注意し、必要時、看護師に相談し適切に受診や看護を受けられるように支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期的に病院関係者と連絡を取るなどし、本人の状況把握に努めている。退院時には家族説明に同席し、退院後の対応についての情報、意見、方針の共有に努めている。		
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の意向確認し、また入所後の体調の変化に合わせても意向確認しながら話し合いの機会を持ち、施設で出来る事など都度説明しながら方針を共有するように努めている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、対応マニュアルを作成し、活用できるように研修を行っている。		
35 13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に来てもらい、ご利用者も参加しての災害訓練を実施している。地域への働き掛けは、地域への交流を増やし、協力を得られるように働きかけている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方などは折にふれて個別に職員で行ったり会議にてよりよい対応が出来るように、話し合いを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で例えば、水分補給時の飲物や、今日着る服、本人の使用するお茶碗などを選んでもらったりする事で小さな選択の積み重ねを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりを優先してしまっている事もあるが、状況に応じて本人のペースや希望に合わせた対応も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣類を選択してもらったり、施設内にて本人の好みを聞きながらカットしてもらうようにしている。また部屋に本人持ちの化粧品を置き、いつでも使用できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士から献立を決定する際に好みを聞いてもらったり、準備を一緒にしたりしている。食事はご利用者と職員が一緒に摂る事を基本とし、随時嗜好を確認している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	1日の摂取は通常1600cal程度とし制限食は主食や芋類の量で調整している。食事量や水分量を毎日チェックし、体重管理と共に習慣や嗜好に合わせて必要量の確保に努め、体調管理を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他、歯科衛生士による口腔ケアも実施している。必要に応じて歯科衛生士より歯科医へ報告し指示を仰ぐようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	食事や入浴前など、他利用者と同じタイミングで声かけしたり、個々の状況に合わせて対応したりと個々の心身状況に応じた対応と必要最低限のオムツやパットの使用にて清潔に、スムーズな排泄が促せるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握に努め、食事、水分量、運動などで便秘の予防に努めると共に、医師に指示をもらいながら服薬等にて排便管理しスムーズな排便を促せるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴の機会は月水金・火木土など固定しているが、『今日はお風呂の日』と楽しみにされご利用者自身のタイミングになりつつある。体調などにより必要に応じた変更には対応している。		

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝・昼・夕の食事時間を中心に生活しているが、起床、就寝など本人の生活リズムに合わせた対応も実施している。また気候により寝具や空調管理などにも配慮している。昼食後には足を延ばして休んで頂けるような声かけも実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はすぐに確認できる場所に配置しており、個々に応じた服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	合唱、陶芸、手芸、制作などの趣味の部分や、部屋やフロアの掃除、洗濯物をたたむ、テーブルを拭く、食器を洗う、毎日の献立を書くなど役割の部分と、両方を提供している。また散歩などでの気晴らしも提供できている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設の庭や歩いて行ける範囲での外出や、買い物、外出レクなどを企画し、天候や本人の体調を考慮しながら実施している。地域の方の協力によりその方の自宅にて花見させてもらう外出レクも行えた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の外出時などでは、本人が自分のお金を持ち、買い物ができるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事前に家族に了解を取り、本人の希望がある場合に職員の介助にて電話をかけるようにしている。かかってきた電話には出て頂き、手紙は本人に手渡しし、必要に応じて代読している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の草木には実がなるものを植え収穫を一緒にしてもらったり、四季折々の花を楽しんでもらえるようにしている。庭で咲いた花をフロアで生けるなどして季節感を取り入れている。居心地のよい空間づくりをするよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士が近くの席に座られるよう、食事のテーブル以外にソファや椅子を設置し、好みの場所で過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの品を持ち込んでもらえるようにすすめている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室などに手すりを設置し、また家具も安定した物を置くようにしている。トイレマークや入浴日の貼り出し、毎日の献立の記入、自室には記名の暖簾をかけたり、タンスには衣類の種類を表示し少しでも自身でもわかりやすいように工夫している		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない